

貯 法：室温保存

有効期間：3年

承認番号 23000AMX00123
販売開始 1990年7月蛋白分解酵素阻害剤
注射用ガベキサートメシル酸塩劇薬
処方箋医薬品 **ガベキサートメシル酸塩注射用500mg「タカタ」**

(注意 - 医師等の処方箋により使用する)

Gabexate Mesilate Injection "TAKATA"

**2. 禁忌** (次の患者には投与しないこと)
本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者**3. 組成・性状****3.1 組成**

有効成分	
1 バイアル中	
日局 ガベキサートメシル酸塩	500mg

3.2 製剤の性状

性状	白色の塊である
pH	4.0~5.5 (1.0g/10mL 水溶液)
浸透圧比 (生理食塩液に対する比)	約 1 500mg/5w/v% ブドウ糖注射液 500mL

4. 効能又は効果

汎発性血管内血液凝固症

6. 用法及び用量

通常、成人 1 日量ガベキサートメシル酸塩として 20~39mg/kg の範囲内で 24 時間かけて静脈内に持続投与する。

7. 用法及び用量に関連する注意

汎発性血管内血液凝固症

本剤は高濃度で血管内壁を障害し、注射部位及び刺入した血管に沿って静脈炎や硬結、潰瘍・壊死を起こすことがあるので、末梢血管から投与する場合、本剤 100mg あたり 50mL 以上の輸液 (0.2%以下) で点滴静注することが望ましい。[11.1.3、14.1.2 参照]

8. 重要な基本的注意

ショック、アナフィラキシーショック、アナフィラキシーがあらわれることがあるので、十分な問診と救急処置のとれる準備を行い、投与にあたっては観察を十分に行い、血圧低下、発赤、そう痒、不快感、嘔気等の症状があらわれた場合には直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。[11.1.1、11.1.2 参照]

9. 特定の背景を有する患者に関する注意**9.5 妊婦**妊婦又は妊娠している可能性のある女性には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合のみ投与すること。また、大量投与は避けること。大量 (100mg/kg/日) 投与でマウスに胎児体重の増加の抑制が認められている。¹⁾**9.6 授乳婦**

治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること。

9.8 高齢者

減量するなど注意すること。一般に生理機能が低下している。

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

11.1 重大な副作用**11.1.1 ショック、アナフィラキシーショック** (いずれも頻度不明)

ショック、アナフィラキシーショック (血圧低下、呼吸困難、意識消失、咽・喉頭浮腫等) があらわれることがある。[8、参照]

11.1.2 アナフィラキシー (頻度不明)

アナフィラキシー (呼吸困難、咽・喉頭浮腫等) があらわれることがある。[8、参照]

11.1.3 注射部位の皮膚潰瘍・壊死 (頻度不明)

本剤の濃度が高くなると、血管内壁を障害し、注射部位及び刺入した血管に沿って静脈炎や硬結、潰瘍・壊死を起こすことがある。注射部位の血管痛、発赤、炎症等があらわれた場合には投与部位の変更又は投与を中止し、適切な処置を行うこと。[7、14.1.2 参照]

11.1.4 無顆粒球症、白血球減少、血小板減少 (いずれも頻度不明)**11.1.5 高カリウム血症** (頻度不明)**11.2 その他の副作用**

	0.1~1%未満	頻度不明
過敏症	発疹、そう痒感等	
出血傾向		出血傾向亢進
血液		好酸球増多、顆粒球減少
循環器	血圧低下	
肝臓	黄疸、AST の上昇等	総ビリルビン上昇、ALT の上昇等
その他	悪心	顔面潮紅、発熱、低ナトリウム血症

14. 適用上の注意**14.1 薬剤投与時の注意****14.1.1 点滴静注する場合**、投与速度が増加すると血圧が低下することがあるので、ガベキサートメシル酸塩として体重 1kg 当たり毎時 2.5mg 以下とすることが望ましい。**14.1.2 薬液が血管外へ漏れると**、注射部位に潰瘍・壊死を起こすことがあるので、薬液が血管外へ漏出しないよう注意すること。血液うっ滞が起こらないようできるだけ太い血管より投与すること。[7、11.1.3 参照]**16. 薬物動態****16.1 血中濃度**持続静脈内投与すると、血中濃度は投与開始後 5~10 分で定常状態に達した²⁾。健康成人 2 例に 10mg/kg を静脈内に投与すると血中濃度は指数的に減少し、その半減期は約 55 秒である³⁾。**16.4 代謝**ガベキサートメシル酸塩は血液の中でエステラーゼにより、ε-グアニジノカブロン酸 (GCA) と 4-ヒドロキシ安息香酸エチル (EPHB) に加水分解される⁴⁾。**16.5 排泄**¹⁴C-ガベキサートメシル酸塩をラットに静脈内投与すると、投与 24 時間以内に尿中に約 70.8%、糞中に約 3.6%が排泄される。また、GCA はそのまま、EPHB はグルクロン酸抱合され、尿中に排泄される⁴⁾。

17. 臨床成績

17.1 有効性及び安全性に関する試験

17.1.1 国内比較臨床試験

汎発性血管内血液凝固症を対象として比較臨床試験を行い、ガベキサートメシル酸塩による出血症状の改善及び凝固因子の消費抑制が認められている⁵⁾。

18. 薬効薬理

18.1 作用機序

ガベキサートメシル酸塩は血液凝固系に対して阻害作用を有し、アンチトロンビンⅢの存在を必要とせずトロンビン及び活性型第X因子を阻害するとともに血小板凝集を抑制し、汎発性血管内血液凝固症に効果が認められている^{6),7)}。

18.2 蛋白分解酵素阻害作用

トリプシン、プラスミン、カリクレイン、トロンビン、C1-エステラーゼに対し阻害作用を示す⁸⁾⁻¹⁰⁾ (*in vitro*)。

18.3 血液凝固因子阻害作用

血液凝固線溶系酵素に阻害作用を有し、トロンビン及びプラスミンに対する50%阻害濃度はそれぞれ10 μ M、100 μ Mであり、トロンビンに対して強い阻害作用を示す。また、トロンビン、活性型第X因子に対する阻害作用にアンチトロンビンⅢの存在を必要としない⁶⁾ (*in vitro*)。

18.4 汎発性血管内血液凝固症 (DIC) に対する作用

トロンビン、トロンボプラスチンあるいはエンドトキシン投与による実験的DICにおいて、血中凝固因子の消費の抑制 (ウサギ⁷⁾、ラット¹¹⁾) と臓器内の血栓形成抑制 (ラット¹²⁾) が認められている。

18.5 血小板凝集抑制作用

ADP、トロンビン、コラーゲンによるヒト血小板の凝集を抑制する¹³⁾ (*in vitro*)。

19. 有効成分に関する理化学的知見

一般的名称：ガベキサートメシル酸塩
(Gabexate Mesilate)

化学名：Ethyl 4- (6-guanidinohexanoyloxy) benzoate monomethanesulfonate

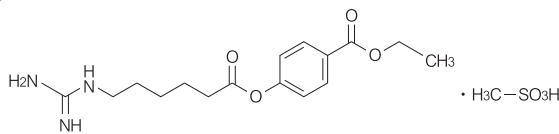
分子式：C₁₆H₂₃N₃O₄ · CH₄O₃S

分子量：417.48

性状：白色の結晶又は結晶性の粉末である。

水に極めて溶けやすく、エタノール (95) に溶けやすい。

化学構造式：



融点：90~93℃

pH：1.0gを水10mLに溶かした液のpHは4.7~5.7である。

22. 包装

10バイアル [ガラスバイアル]

23. 主要文献

- 1) 藤田常夫他：応用薬理 1975；9：743-760
- 2) 日本薬局方解説書編集委員会編：第十八改正 日本薬局方解説書 2021：C-1341-1346
- 3) Nishijima J. et al.：Thromb. Res. 1983；31：279-284
- 4) 杉山正康他：応用薬理 1975；9：733-742
- 5) 神前五郎他：医学のあゆみ 1983；124：144-154
- 6) 大野博之他：Thromb. Res. 1980；19：579-588
- 7) 磯部淳一：現代医療 1979；11：521-530
- 8) 加山直宏他：現代医療 1974；6：1010-1016
- 9) Tamura Y. et al.：Biochim. Biophys. Acta. 1977；484：417-422
- 10) 藤井節郎他：代謝 1977；14：1087-1098
- 11) 吉川敏一他：日本血液学会雑誌 1982；45：633-640
- 12) 大野博之他：Thromb. Res. 1981；24：445-450
- 13) 野村孝：血液と脈管 1980；11：512-522

24. 文献請求先及び問い合わせ先

高田製薬株式会社 文献請求窓口
〒336-8666 さいたま市南区沼影1丁目11番1号
電話 0120-989-813
FAX 048-816-4183

26. 製造販売業者等

26.1 製造販売元

高田製薬株式会社
さいたま市西区宮前町203番地1